

12回生、卒業

3月2日(月)、中等12回生の卒業式が開かれました。学校行事をはじめとする中等の伝統を、主体的に進化・発展させてきた12回生が、在校時代の思い出を胸に、次のステージへ飛び立ちました。



12回生学年幹事より

皆様こんにちは。この度、12回生の同窓会担当を務めることになりました、竹内宏と遠藤杏です。卒業式からまだ1ヶ月も経っておらず、住み慣れた校舎を離れた寂しさがどこか残る中、私たちが同窓会の一員として名を連ねることに、驚きと同時に身の引き締まる思いです。



私たち12回生は「上村チルドレン」として6年間、この神戸大学附属中等教育学校を全力で駆け抜けてきました。振り返れば、私たちは「自らが光を放ち、互いに照らし合う」学年であったと感じます。入学当初の自粛活動や先行きの見えない不安という暗闇さえも、自分たちの手で彩り豊かな日常へと変えてきました。行事や日々の学びの中で、仲間と切磋琢磨し、互いの個性を尊重し合えた時間は、何物にも代えがたい私たちの誇りであり一生の宝物です。

これから私たちはそれぞれの道を歩み始め、新たな環境で多くの経験を積んでいくことになります。時には不安や困難に直面することもあると思いますが、高校生活で培った仲間との絆や学びを胸にそれぞれの場所で成長していけると信じています。10年後、20年後、あるいはもっと先であっても、同窓会で仲間と再会した時に、昔日の日々を思い出せるような場所をこれから作っていくことができれば、卒業の寂しさも少しずつ期待へと変わっていくように思います。



最後になりましたが、これまで私たちを支えてくださった先生方、先輩方、後輩たち、そして家族には心より感謝申し上げます。皆様の温かいご指導とご支援があったからこそ、今日の私たちがあります。12回生の仲間が各々の場所で活躍し、再び集まった時に互いの成長を喜び合えることを楽しみにしています。

今後とも、私たち12回生の活躍にご期待ください！どうぞよろしくお願いいたします！

学年主任の上村先生より

小学校の卒業式も、本校での入学式も通常のかたちではできなかった12回生は、時代に翻弄されるところから始まりました。入学式ができず、新入生が座るはずだった教室の各座席に教科書を仕分けしたものを段ボール箱に詰め、宅配業者に手渡すところから私たち12回生教



員の仕事は始まりました。登校開始後は、分散登校や、黙食による給食など、制限ばかりの1年でしたが、不思議なもので、学校で集える喜びの方が勝っていました。初めて迎えた行事となった2年生の兔原祭で、たまりにたまったエネルギーを放出するかのように「自治・協同・創造」を体現する12回生の姿に、圧倒されたことを記憶しています。

12回生の素晴らしさは、みんなで楽しめることだと感じていました。毎年最終登校日となる修了式が行われる日は、有志が作ってくれた1年間の思い出動画を鑑賞しました。それは、卒業式の日も同様に、あの空間はきっとみんな大好きでした。もう1つのすばらしさは、みんながリーダーになれることでした。どの集まりでも必ず主体的に動き、一人ひとりがどこかの場面で輝いていました。

「私たちは、6年前の静寂の暗闇さえも、自分たちの手で彩り豊かな日常へと変えてきたのです。この6年間で得た自信があれば、これから立ち塞がるどんな困難も、きっと乗り越えていけます。新たな舞台へと進んでいく私たちは、今度は自分たちが誰かの道を照らす『光』となるでしょう。」(同窓会委員である竹内宏さんによる卒業式での答辞の一節です)。昨今の情勢を見れば、6年前同様、社会ではこれからも困難がやってくるでしょう。さらには、個人的に迎える困難もあるでしょう。でも、12回生の皆さんは、自ら道を拓く「光」にも、誰かの道を照らす「光」にもなれると思っています。

最後に、同窓会のみなさま、12回生114名が新たに同窓会の一員となります。どうかよろしく願いいたします。



成人の集いにあわせて10回生の同窓会が開催される!

成人の日を間近に控えた1月10日(土)に全国から10回生93名と、恩師の先生方8名をお招きし、10回生同窓会を開催致しました。会は、ご来賓の先生方から温かいお祝いのお言葉をいただくことから始まり、その後は各テーブルで久しぶりに顔を合わせる友人たちとの会話に花が咲きました。中盤の企画では、中等教育学校での6年間を振り返る「思い出クイズ」を実施。自分たちが共に過ごした日々を思いを馳せながら、チーム対抗で大変な盛り上がりを見せました。また、10回生の現在の活躍や大学生活の様子をまとめたスライドショーの上映では、それぞれの充実した日々を、会場のあちこちで笑顔がこぼれていました。最後



は先生方による閉会のご挨拶と、学年全体での記念撮影を行いました。2時間はあっという間に過ぎ去り、名残惜しさを感じながらの閉会となりました。

参加者からは「第二回も開催してほしい」という声が多く寄せられ、月日が流れても変わることのない10回生の強い絆を感じることできました。皆さんと笑顔で再会できる日を、心より楽しみにしております。(10回生 鈴川)



中等生の活躍!!

(一部抜粋)
2026年3月 ver.

■ 男子テニス部

兵庫県公立高等学校テニス大会	団体 (男子)	優勝
	個人 (男子シングルス)	準優勝
近畿公立高等学校テニス大会	団体 (男子)	第3位
	個人 (男子シングルス)	優勝

■ 女子テニス部

兵庫県高等学校対抗テニス新人大会	女子団体線	優勝
------------------	-------	----

■ コーラス部

全日本合唱コンクール	全国大会	中学生部門混声合唱の部	銅賞
全日本合唱コンクール	全国大会	高等学校部門Bグループ	銅賞

■ ESS部

HPDU 中学生パラメンタリーディベート大会	4位入賞
PDWC 2026 High School Parliamentary Debate World Conference and Competition	Third Place

■ KP・FIT など

兵庫県高校生英文エッセーコンテスト	最優秀賞	ほか
心の輪を広げる体験作文	優秀賞	
アプリ甲子園 2025	入賞	
全国高校生英語ディベート (HEnDA) 記念大会 in 埼玉	第3位	ほか
リアビズ高校生模擬企業グランプリ	銀賞	
兵庫県統計グラフコンクール	特選	ほか
「WE LOVE トンボ」 絵画コンクール中学生の部	入選	
日本森林学会大会 高校生ポスター発表	優秀賞	

学校 NEWS 短信

6名の先生方が離任される

2026年3月末をもって、以下の6名の先生方が中等を離任されました。

河合 暁子 先生 (保健体育)

中川 雅道 先生 (国語)
前田 辰弥 先生 (数学)
岩崎 拓也 先生 (理科)
橋本 紳之亮 先生 (保健体育)
作本 圭子 先生 (英語)

卒業生だより

住友 亮太さん [中等5回生]

附属の皆様、お久しぶりです。5回生の住友亮太です。

この度は、卒業生だよりに寄稿する機会をいただき、大変光栄に思います。

私は附属住吉小学校から中等6年生までの12年間を住吉校舎で過ごし、部活に体育祭、兔原祭、ディベートと様々な経験をさせていただきました。卒業後は関東の大学・大学院で工学を学び、昨年からは東京のシンクタンクで勤務しています。

今日は、「私なりに感じている附属で学ぶことの意味」と「最近大事にしている価値観」についてお伝えできればと思います。

皆さんは、附属で学ぶことの意味をどのように感じられているでしょうか。特に在校生の皆さんは、なかなか実感が湧かないかもしれません。私自身も在校中は「みんな仲が良くって自由な学校だな」くらいにしか思っていませんでしたが、卒業してから、自分がいかに恵まれた環境で育ったかを実感するようになりました。

卒業後に他校出身の友人と話す中で気付いたのは、附属出身者の母校への帰属意識の高さです。もちろん学校は、学び、社会に出るための準備をする場所でもありますが、附属はそれだけにとどまらず、心の拠りどころのような存在になっています。帰省して附属の同期や先輩後輩、教職員の方々と会うたびに、「自分の帰ってくる場所はここにある」と感じさせてもらえるのです。

これほどまでに生徒の意思を尊重し、背中を押してくれる環境は他にありませんし、そこで培った積極性や、自ら道を切り開く力は、間違いなく我々の今後の人生の糧となるでしょう。在校生の皆さんには、この環境を存分に生かし、様々なことに挑戦してほしいと思います。

次に、最近大事にしている価値観についてです。私が勉強や仕事で思うようにいかず、全てを諦めそうになるたびに自問しているのが、「過去の自分を裏切っていないか？」という問いです。

今、私たちが思う存分生きられるのは、誰のおかげでしょうか。それは、支えてくれるご家族やお世話になった教職員の方々のおかげであり、そして何よりも、自らの意思で歩みを重ねてきた自分自身のおかげです。将来の夢に目を輝かせていた幼少期の自分や、難しい勉強にも歯を食いしばって取り組んできた過去の自分の延長線上に今の自分があると考えたとき、「もう少し頑張ってみるか」と前向きな気持ちになることができます。

これからの人生にも様々な困難が待ち受けていると思いますが、そのたびに過去の自分に胸を張れるよう、努力を重ねてまいります。

最後になりましたが、皆さまの益々のご活躍とご健勝を心よりお祈りいたします。またお会いできる日を楽しみにしています！



Ryota Sumitomo

大学で機械工学、大学院では医工学を専攻。中等在学時から大学卒業まで卓球部に所属したほか、ロケットエンジン開発プロジェクトにも携わった。

先生だより

川嶋 久予 先生

同窓生のみなさま、卒業生のみなさま、お元気にお過ごしでしょうか。附属中等の卒業生のみなさまとは4回生の4年時、10回生は1年生より6年間、担当しました。授業のほうでは、9回生とこの春卒業した12回生とはご縁がなかったのですが、ほかの学年は4回生以降、多くの学年の授業を受け持ちました。現在は、13回生の学年主任を昨年度から務めています。附属中等での教員生活も、この3月で11年が終わろうとしています。私自身の教員生活のなかでは、一番長く勤務する学校となりました。

本校に着任する以前は京都の公立高校で勤務しており、それまで神戸にゆかりがあったわけでもなく、また附属学校で勤めてみたいとか、中等教育学校に特別興味があったわけでもありませんでした。ある日、何げなく見つけた教員募集の案内がここで勤めるご縁となりました。人生とは本当に不思議なものです。

そして、着任して初めて中学生と出会うこととなります。給食の時間、道徳の時間、書写の時間……私にとって初めてのことがたくさんありました。教科の学びも中学と高校とでは異なることが多く、教科書や文字の大きさ、載っている教材など戸惑いもありました。ただ、私自身が中学生のときに出会った、谷川俊太郎の「朝のリレー」や太宰治の「走れメロス」などを授業で取りあげることができ、やわらかな感性で感じたままを伝えてくれる生徒たちとの授業はとても楽しいものでした。

着任してからの11年間、その半分以上が10回生とともに過ごした時間となります。六甲台講堂での入学式、神戸市立自然の家での宿泊オリエンテーション、聞き方・話し方訓練……そこから始まった6年間は私にとって中身が濃く、かけがえのない時間でした。しかしその後、感染症の流行でいろいろなことが予定どおりにいかない日々が始まりました。ちょうど、充実期のころのことです。そんな中で印象深いのが、沖縄の研修旅行に向けて取り組んだ「平和学習」での「平和の詩」の作成です。結果的に、沖縄へ行くことはかえりませんが、国語の授業で俳句や短歌を幾度となく作り、また詩の朗読や群読などにも取り組んできたみなさんが、それらの学びを生かし、平和への祈りをこめて「平和の詩」をつくったことは、附属中等での教員生活のなかでも私にとって、とても大切な思い出のひとつです。

また、附属中等に着任して驚いたことのひとつが、「校歌」が斉唱ではなく合唱で歌われることでした。そんな学校は、これまで勤務したところにはありませんでした。始業式や終業式に校歌を歌わない学校もあつたくらいです。この「校歌」は1回生のみなさんがつくられたと知ったとき、合唱という文化がこの学校には根づいていることを実感しました。4回生のみなさんがつくられた「応援歌」も、体育祭で応援演技として披露されるなど、印象に残っています。いまでも詩の授業の中で、私は「応援歌」を紹介することがあります。ことばを紡ぎ、思いを伝

Hisayo Kawashima

2015年4月に着任。中等10回生の副主任を6年間務めたほか、多くの学年の国語の授業を担当。吹奏楽部の顧問としても在校生の中等生活を支える。



えてきたこれらの「うた」にはダイレクトにそのメッセージがつまっています。ことば以外の、たとえば三大祭のマスコットキャラクターにも、つくられた経緯など、これまでの歴史がつまっています。附属中等生らしさとはいたるところに受け継がれている、そんな気がしています。

卒業生のみなさんが生み出してきたもの、そしてそれを次の世代に受け渡し、その思いをつないできた多くの附属中等生の姿があったからこそ、いまがあると思うのです。在校生のみなさんにも多くの先輩がたの思いのつまっている、この場所で青春を謳歌してもらいたいと思いますし、そんな生徒たちの活躍する学校のいまの姿を卒業生のみなさまにも感じていただけたらと思います。

みなさまの明日が温かく、輝かしいものであることをお祈りしています。また、お目にかかれる日まで。

～同窓会からのお知らせ～

■ 今年もホームカミングデイを開催します！：4回目となり恒例になってきましたが、今年も兔原祭の開催日（5月16日（土））にホームカミングデイを開催します。教室を1部屋借りて卒業アルバムなどを展示し、卒業生が思い出話に花を咲かせることのできるスペースを提供します。是非、お誘い合わせのうえご参加ください。詳細は、追って学年代表幹事を通してお知らせします！



寄付のお願い

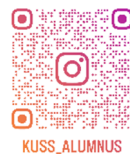
母校の教育活動の支援のため、寄付へのご協力よろしくお祈りします。

附属学校部 HP：<http://www.schools.kobe-u.ac.jp/donations.html>



SNSで情報発信中！

Instagram、Xで同窓会関係の情報を発信しています！フォローお願いします



KUSS_ALUMNUS



@kuss_alumnus

【編集後記】

12回生の卒業式が開催された3月2日はまだ肌寒かったのですが、桜の開花とともに少しずつ暖かい日が増えてきました。「東の京都」へ転勤してきた時は、文字通り右も左も分からない田舎者でしたが、2年で関西へ戻ることが確定していたため、予定を詰め込んでかなりの数の桜の名所（井の頭公園、目黒川、千鳥ヶ淵、代々木公園、外濠公園、多摩湖、etc.）に赴きました。元々「東京、東大、巨人軍」が嫌いな私でしたが、魅力に触れると自分が食わず嫌いだったことを実感しました（3つ目は一生受け付けません、今年もタイガースが優勝しますので…笑）。

思い返せば、12回生が中等に入学した2020年の春には、閑散とした街の様子が報道されるとともに、世間では「秋入学」の是非が議論されていました。その際、日本の風物詩だから春に入学・卒業を迎えるべき、といった論旨が挙がっていましたが、もし秋入学が実現していたらどうなっていたのでしょうか。出会いや別れの季節に抱く心情を投影することはできなくなったとしても、きっと新たな桜の愛で方が見出されていた気がします。

先入観や時代の趨勢に惑わされず、常に新鮮な気持ちで過ごしたいと感じる今日この頃です。4月から新生活が始まる方も多いと思いますが、素直な心を持ち続け、心豊かに頑張りましょう！

（次号は2026年6月30日発行予定です）